

## ばあばちゃんへ

住川 仁美（神奈川県川崎市・二十六歳）

ばあばちゃん元気になっていますか。ばあばちゃんが旅立ってからもうすぐで1年が経とうとしているね。ばあばちゃんが旅立っていった日のことを今でも鮮明に覚えています。

お母さんから入院したと連絡がきて、東京から静岡へ駆けつけた時には、ばあばちゃんはまだ喋ることができなくなっていたね。毎日寝ないで横に付き添っているお父さんお母さんは疲れきっていて、あの日は私が一人ではあばちゃんに付き添うことに決めました。でもね、本当は正直とても怖かったんだ。なんだか今にも、ばあばちゃんが消えてしまいそうに感じたの。だから私は、一生懸命ばあばちゃんの手を握ったんだよ。

あの日は久しぶりに、ばあばちゃんと二人きりで過ごしたよね。私が一方的に話していたけど、手を力いっぱい握り返してくれてさ、「そうか、良かったね」と相槌を打ってくれてるように感じたよ。好きな人がいる話をしたのを覚えてるかな？

実はあの日、好きな人と会う約束をして告白しようと思っていたの。会うことは出来なかったけどあの日ね、少し病室を出て彼に謝りの電話を入れた時、彼が告白してくれたんだ。嬉しくて嬉しくて、ばあばちゃんに手を握りながら報告したら、手を思い切りぎゅっと握ってニコって笑ってくれたよね。

でも・・・それからすぐだったね。大きく息を吸ってさ、ばあばちゃんは私が一人、見守るなか旅立っていったね。

ばあばちゃん、今私、すごく幸せだよ。ばあばちゃんが旅立った後の数ヶ月間、寂しさと怖さで泣けてくる 때가 あったけれど、彼がいつも守ってくれたんだ。

ばあばちゃんは人の世話を焼くのが好きで、何組ものカップルを誕生させてきたと旅立ってからそんな話を聞きました。きっと、最後の最後に孫の私の世話を焼いて、私と彼を結びつけてくれたんだと思っています。

ばあばちゃんが旅立った日は私と彼の記念日でもあります。あの日最後に二人で過ごした時間はきっと忘れないよ。ずっとずっと私たちの記念日と一緒にばあばちゃんは生き続けるからね。千の風になって、私たちを見守っていてね。

また会う日まで。